

研究室だより

(2009 年 4 月～2010 年 3 月)

- 大場昌子氏は、4 月、教授に昇任。
- 川端康雄教授は、4 月、学務部長に就任。
- 佐藤達郎准教授は、4 月、日本シェイクスピア協会委員に就任。
- 大場昌子教授は、4 月 1 日から 9 月 24 日までサバティカル。
- ソーントン不破直子教授は、4 月、『フォークナー』第 11 号 (松柏社) に *Barbara Ladd, Resisting History: Gender, Modernity and Authorship in William Faulkner, Zola Neale Hurston and Eudora Welty* (Baton Rouge: Louisiana State UP, 2007) の書評を執筆。
- ダニエル・ガリモア准教授は、4 月 5 日、Contemporary British poetry on the Internet: a journey into the Poetry Archive を Association of Foreign Teachers in Japan (於日本女子大学) にて招待講演。
- 藤井洋子教授は、4 月 26 日、日本英語学会主催 The 2nd International Spring Forum (於奈良女子大学) にて司会を務める。
- 植野貴志子助教は、5 月 23 日、「会話における疑念の表示——疑問表現の分析」を人間と言語 5 月例会 (於立教大学) にて口頭発表。
- 坂田薫子准教授は、5 月 31 日、「象徴としての結婚——『エセルバータの手』における階級とジェンダー」を日本英文学会第 81 回全国大会 (於東京大学) にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、6 月、「ジョン・ラスキンの美術評論と社会思想——繁栄の裏面から」ならびに「新しき村と羅須地人協会——武者小路実篤と宮沢賢治」を藤田治彦編『芸術と福祉——アーティストとしての人間』(大阪大学出版会) に執筆。
- 島田法子教授は、6 月、『写真花嫁・戦争花嫁のたどった道——女性移民史の発掘』(明石書店) を編著者として出版。
- 白井洋子教授は、6 月 5 日、“Studying and Teaching American History in Japan” をシンポジウム Reflection on Fifty Years of the American Experience: A Day with Mike Zuckerman (於 Philadelphia Center for Early American Institute, University of Pennsylvania) にて口頭発表。
- 新見肇子教授は、6 月 6 日、「Blake: ‘And did those feet in ancient time’ (Milton より)」を「イギリス・ロマン派講座——名詩の解釈と鑑賞 (イギリス・ロマン派学会)」(於早稲田大学) にて招待講演。
- 島田法子教授は、6 月 7 日、アメリカ学会第 43 回年次大会 (於津田塾大学) にて司会を務める。
- 英語英文学会主催の春季講演会が、6 月 11 日、開催された。講師は百々佑利子氏 (本学児童学科元教授・児童文学者)。演題は「翻訳の 10 の喜び」。
- 佐藤和哉准教授は、6 月 14 日、『物語集』の史料論的検討——初期近代イングラントにおける『ポピュラー・カルチャー』の概念をめぐって——」を日本

西洋史学会第 59 回大会（於専修大学）にて口頭発表。

- 松森晶子教授は、6 月 27 日、日本音声学会評議員会（於国学院大学）にて司会を務める。
- 川端康雄教授は、7 月、ジョージ・オーウェル作『動物農場——おとぎばなし』の翻訳を岩波書店より出版。
- ダニエル・ガリモア准教授は、7 月、Review of *Noh King Lear* を *The Bulletin of the International Society for Harmony & Combination of Cultures* No. 13 に執筆。
- 藤井洋子教授は、7 月 12 日から 17 日まで、国際語用論学会第 11 回大会（於メルボルン大学）に出席、研究発表のためオーストラリア・メルボルンへ海外出張。7 月 13、14 日、大会にて司会を務める。7 月 16 日、“A Cross-linguistic Study of Negotiating interaction: A Comparison of Story Co-Construction by Korean, Japanese, and American Pairs”をパネル“Emancipatory Pragmatics: The Search for Cultural Parameters in Interactional Discourse”にて口頭発表。
- 植野貴志子助教は、7 月 14 日から 18 日まで、国際語用論学会第 11 回大会に出席、研究発表のためオーストラリア・メルボルンへ海外出張。7 月 16 日、“Questions as Expression of Doubt: A Study from Japanese Conversational Data”を大会にてポスター発表。
- ダニエル・ガリモア准教授は、7 月 20 日から 7 月 31 日まで、翻訳研究サマー・スクールのため、香港バプテスト大学へ海外出張。
- 佐藤達郎准教授は、7 月 25 日、「John Harington 訳 *Orlando Furioso* など」を科学研究費研究会（基盤研究 B、第 22 回「宗教とテューダー朝演劇の成立」研究会）（於慶応義塾大学）にて口頭発表。
- アン・スレイター准教授は、7 月 30 日から 8 月 27 日まで、資料収集及びインタビューのため、ボストン、サンフランシスコへ海外出張。
- ダニエル・ガリモア准教授は、8 月、磯前順一／ダニエル・ガリモア共訳、ホミ・K・バーバ著『ナラティヴの権利——戸惑いの生へ向けて』（みすず書房）を出版。
- 三神和子教授は、8 月 8 日から 20 日まで、資料収集のためイギリス、ケンブリッジ大学図書館へ海外出張。
- 佐藤和哉准教授は、8 月 15 日から 8 月 31 日まで、科学研究費基盤研究（C）「初期近代イングランドにおける民衆文芸に関する学際的研究」に関する資料収集のため、連合王国（ロンドン、オクスフォード）へ海外出張。
- 島田法子教授は、8 月 24 日から 9 月 3 日まで、日系アメリカ人移民研究調査のため、アメリカ合衆国・ハワイ大学へ海外出張。
- 川端康雄教授は、9 月、「解題・小野二郎著『ラスキンとウェスカー』」を『ラスキン文庫たより』第 57 号に執筆。また同紙に、キース・ハンリー著「ラスキンのエコロジカルなまなざし——自然、芸術、リアリズムの倫理（続）」の翻訳を掲載。
- 大場昌子教授は、9 月 9 日、日本ソール・ペロー協会第 21 回大会に出席。「フォーラム・ディスカッション *More Die of Heartbreak* を読む」において発題

者を務める。

- 坂田薫子准教授は、9月19日、「ゴシック小説として読む『カスターブリッジの町長』」を第97回十九世紀英文学研究会（於同志社大学）にて口頭発表。
- 松森晶子教授は、9月26日、「西日本における『昇り核』の方言——鳥取県青谷町周辺のアクセント——」を第23回日本音声学会全国大会（於九州大学）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、10月、「読むことと批評——創刊にあたって」を『レイモンド・ウィリアムズ研究』第1号に執筆。また同誌にて「討議——批評的アクションをめぐる」の司会を務める。
- 島田法子教授は、10月、『海を渡った花嫁物語』（海外移住資料館）を編者として出版。
- 白井洋子教授は、10月、「軍事主義とジェンダー——『ベトナム』以後の米国軍隊と女性兵士」を『ジェンダー史叢書5 暴力と戦争』（明石書店）に共著にて執筆。
- ソーントン不破直子教授は、10月、『茶の本』（岡倉天心著 *The Book of Tea* の翻訳、1969年出版版の新版）（春風社）を出版。
- ダニエル・ガリモア准教授は、10月、*Shakespeare in Contemporary Japan* を *Shakespeare in Hollywood, Asia, and Cyberspace* (ed. Alexander C. Y. Huang and Charles S. Ross, West Lafayette, IN: Purdue University Press) に執筆。
- ダニエル・ガリモア准教授は、10月、*Inside Out: Dreaming the Dream in Contemporary Japan and Korea* を *Glocalising Shakespeare in Korea and Beyond* (ed. Lee Hyon-u, Seoul: Dongin Publishing) に執筆。
- 松森晶子教授は、10月1日、人間文化研究機構国立国語研究所（NINJAL）客員教授に就任。
- 坂田薫子准教授は、10月3日、シンポジウム「*Mansfield Park*を読む——Fanny Priceを中心として」の講師の一人として、「恋するファニー——ファニー・プライス擁護論」を日本オースティン協会第3回大会（於白百合女子大学）にて口頭発表。
- ダニエル・ガリモア准教授は、10月4日、日本シェイクスピア協会第48シェイクスピア学会（於筑波大学）にてセミナー・コーディネーターを務める。同日、「Tomorrow's Audience: Shakespeare on Stage and in the Classroom」を口頭発表。
- 島田法子教授は、10月16日、「戦後のブラジル花嫁移民」を横浜海外移住資料館公開講座（於横浜海外移住資料館）にて講演。
- ソーントン不破直子教授は、10月17日、日本比較文学会東京大会（於千葉大学）にて研究発表の司会を務める。
- 佐藤和哉准教授は、10月31日、「ルイス・キャロルと時代精神——科学・技術・帝国——」を日本ルイス・キャロル協会第15回大会（於昭和女子大学）にて招待講演。
- 川端康雄教授は、11月、『オーウェル評論集1 象を撃つ』（編、共訳）およ

び『オーウェル評論集2 水晶の精神』（編、共訳）を平凡社より刊行。

- 英語英文学会主催の秋季講演会が、11月12日、開催された。講師は Judith Pascoe 氏（アイオワ大学教授・フルブライト招聘教授（津田塾大学日本女子大学））。演題は “It’s Alive! Mary Shelley’s Frankenstein Lives On”。また、大学院生2名による研究発表も行われた。発表者は、イギリス文学から博士課程後期3年清宮協子。発表タイトルは「ハーディ『テス』に描かれる小動物が象徴するもの——イギリス小説で論文を書くコツ——」。アメリカ研究から博士課程後期1年青木江里花。発表タイトルは「戦争とアメリカの養子縁組」。講演と研究発表に先立ち、平成21年度 E. G. フィリップス賞の授与式が行われた。受賞者は、3年次日下部彩乃、芳賀彩織、4年次酒井葉子、高田夏実。
- 高梨博子准教授は、11月14日、“Investment of Meaning in Discourse: Intertextuality through Resonance”を日本英語学会第27回大会（於大阪大学）にて口頭発表。
- 藤井洋子教授は、11月14日、日本英語学会第27回大会（於大阪大学）にて司会を務める。
- 藤井洋子教授は、11月21日、「日本語の人称詞：自称と対称の融合——自己と他者——西洋語との対比」を日本女子大学学術交流研究シンポジウム「ことばと文化：役割語と人称詞をめぐって (Person Identity and Reference in Interaction: Linguistic, Cultural and Social Perspective)」(於日本女子大学)にて口頭発表。
- 大学院英文学専攻課程協議会第43回研究発表会が、11月21日、上智大学にて開催された。本学大学院より、博士課程後期3年熊倉麻名、博士課程前期2年佐々木周子、博士課程前期2年松本奈津子が発表。アドバイザーとして、三神和子教授が出席。
- 川端康雄教授は、12月、『オーウェル評論集3 鯨の腹のなかで』（編、共訳）および『オーウェル評論集4 ライオンと一角獣』（編）を平凡社より刊行。
- 川端康雄教授は、12月、「バーンヒルまで」（特集＝オーウェル再発見）を『月刊百科』第566号に執筆。
- ソーントン不破直子教授は、12月、*Modern Fiction Studies* 55.4 (Winter 2009) に Noel Polk, *Faulkner and Welty and the Southern Literary Tradition* (Jackson, UP of Mississippi, 2008) の書評を執筆。
- 三神和子教授は、12月5日、「『青鞥』と世界の〈新しい女〉たち」を日本女子大学総合研究所研究発表会にて口頭発表。
- 坂田薫子准教授は、12月12日、ジェイン・オースティン研究会（関東）第4回例会（於青山学院大学）での「学部生によるシンポジウム——初めて読むジェイン・オースティン『高慢と偏見』」にてアドバイザーを務める。
- 川端康雄教授は、12月19日、第12回レイモンド・ウィリアムズ研究会「ボーダーを超える」（於日本女子大学）において司会を務める。
- 松森晶子教授は、12月19日、「琉球アクセント調査のための語彙開発とその活用法」を平成21年度国立国語研究所「危機方言」プロジェクト第1回研究

表会（於国立国語研究所）にて口頭発表。

- アン・スレイター准教授は、12月24日から2010年1月4日まで、資料収集及びインタビューのため、サンフランシスコに海外出張。
- ダニエル・ガリモア准教授は、1月、“Speaking Shakespeare in Japanese: Some Contemporary Exponents”を *Shakespeare in Asia: Contemporary Performance* (ed. Dennis Kennedy and Yong Li Lan, Cambridge University Press) に執筆。
- 川端康雄教授は、1月12日、「ディストピアのおとぎばなし——オーウェル『動物農場』をめぐる」を和洋女子大学英文学会講演会にて招待講演。
- 島田法子教授は、1月29日、成瀬先生告別講演記念瞑想会講演として、「成瀬仁蔵の女子教育観と国際性——アメリカとのかかわりを中心に」と題して講演。
- 松森晶子教授は、2月22日、「2種類の重起伏音調のふるまいの違い」を平成21年度国立国語研究所「日本語レキシコンの音韻特性」研究プロジェクト第2回研究発表会（於国立国語研究所）にて口頭発表。
- 大場昌子教授は、3月、「バーナード・マラマッドの世界観——『神の恩寵』の試み」を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ラスキンの旅のかたち——書評 Keith Hanley, *John Ruskin's Romantic Tours, 1837-1838: Travelling North* (The Edwin Mellen Press, 2007), Keith Hanley and Rachel Dickinson, *Journeys of a Lifetime: Ruskin's Continental Tours* (The Ruskin Library, Lancaster University, 2008)」を『ラスキン文庫たより』第58号に執筆。
- 島田法子教授は、3月、『上代タノ研究——女子教育と平和運動のパイオニア』（ドメス出版）を編著者として出版。
- 島田法子教授は、3月、「日本女子大学創設とアメリカ——成瀬仁蔵と教え子たちのアメリカ留学を中心に——」を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 白井洋子教授は、3月、「ベトナム戦争の記憶：戦場の女性の詩」を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 新見肇子教授は、3月、「『ミルトン』序歌について——ブレイク受容の一断面」を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 坂田薫子准教授は、3月、“Marriage: Class and Gender in *The Hand of Ethelberta*”を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 佐藤和哉准教授は、3月、「巨人退治と民衆暴動——民衆向け出版物における『反乱』と『鎮圧』の表象——」を『日本女子大学文学部紀要』第59号に執筆。
- ダニエル・ガリモア准教授は、3月、“Shoyo, Soseki, and Shakespeare: Translations of Three Key Texts”を『日本女子大学文学部紀要』第59号に執筆。
- 内山加奈枝講師は、3月、“Narrating the Other between Ethics and Violence: Friendship and Politics in Paul Auster's *The Locked Room* and *Leviathan*”を日本英文学会 *Studies in English Literature* 第51号に執筆。
- 植野貴志子助教は、3月、“Questions and Common Ground Building: A Comparative Perspectives of Japanese and American English”を『英米文学研究』第45

号に執筆。

- 大場久恵助教は、3月、「土地をめぐる——J. M. Coetzee の *Disgrace* における農業、性、風景」を『英米文学研究』第45号に執筆。
- 高梨博子准教授は、3月21日から30日まで、解放的語用論第5回国際ワークショップに出席、研究発表のためリビアの Sebha University へ海外出張。“Dynamic Shifts in Japanese Women’s Group Awareness in Conversation”を口頭発表。
- 佐藤達郎准教授は、3月30日、科学研究費研究会（基盤研究B、第22回「宗教とテューダー朝演劇の成立」研究会）報告書「John Harington 訳 *Orlando Furioso* について」を刊行。
- 白井洋子教授は、3月、「先住民女性にとっての『新世界』——植民地主義とジェンダー」を『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（青木書店）を共著にて執筆。
- 林美里助手は、3月31日、退職。